

横浜みなと博物館ライブラリー

船や港の図書を公開する海事専門図書室です。
横浜みなと博物館地下1階常設展示室の中にあります。
27,000冊あまりの蔵書があり、
図書データベースで検索ができます。

開館時間・休館日 横浜みなと博物館と同じです。
ただし、入室は16時45分まで

利用料金 利用の際には、横浜みなと博物館常設展示室の入館券
またはライブラリーのみの利用料1人1日100円が必要です



2つのパネル展示期間中の帆船日本丸と横浜みなと博物館のイベント

帆船日本丸 総帆展帆

帆船日本丸のすべての帆を広げます。
船上から見る大きな帆は迫力満点です！

6月 6月8日(日)、6月15日(日)
9月 9月21日(日)
10月 10月5日(日)、10月12日(日)、10月19日(日)
11月 11月3日(月・祝)、11月16日(日・令和7年度最終展帆)



切絵 日本のクルーズ船三隻揃い踏み
2009(平成21)年 画:柳原良平

横浜みなと博物館 柳原良平 没後10年企画展

柳原良平をかたちづくるもの

～船・アンクルトリスそして横浜～

2025(令和7)年は画家・イラストレーターとして活躍した柳原良平の没後10年にあたります。横浜みなと博物館所蔵の未公開作品を中心に展示します。

会期 2025(令和7)年8月9日(土)～10月13日(月・祝)
会場 横浜みなと博物館特別展示室

帆船日本丸・横浜みなと博物館のご案内

開館時間 10:00～17:00(最終入館16:30)
休館日 月曜日(祝日にあたる場合は開館、翌平日休館)
特別開館日 6月2日(月 横浜開港記念日)、8月12日(火)、9月22日(月)
入館料 一般800円、65歳以上600円、小・中・高校生300円
※帆船日本丸・横浜みなと博物館の両方が見学できる共通券の料金です。
どちらか一方が見学できる単館券もございます。
※毎週土曜日は小・中・高校生は共通券が100円の特別料金になります。

日本丸メモリアルパーク
帆船日本丸
横浜みなと博物館

〒220-0012
横浜市西区みなとみらい2-1-1
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
TEL 045-221-0280(代表) FAX 045-221-0277
<https://www.nippon-maru.or.jp/>



●JR根岸線、市営地下鉄ブルーライン桜木町駅下車 徒歩5分
●みなとみらい線みなとみらい駅・馬車道駅下車 徒歩5分

日本丸メモリアルパーク
帆船日本丸
横浜みなと博物館

戦後80年 太平洋戦争関係 所蔵資料データ等公開

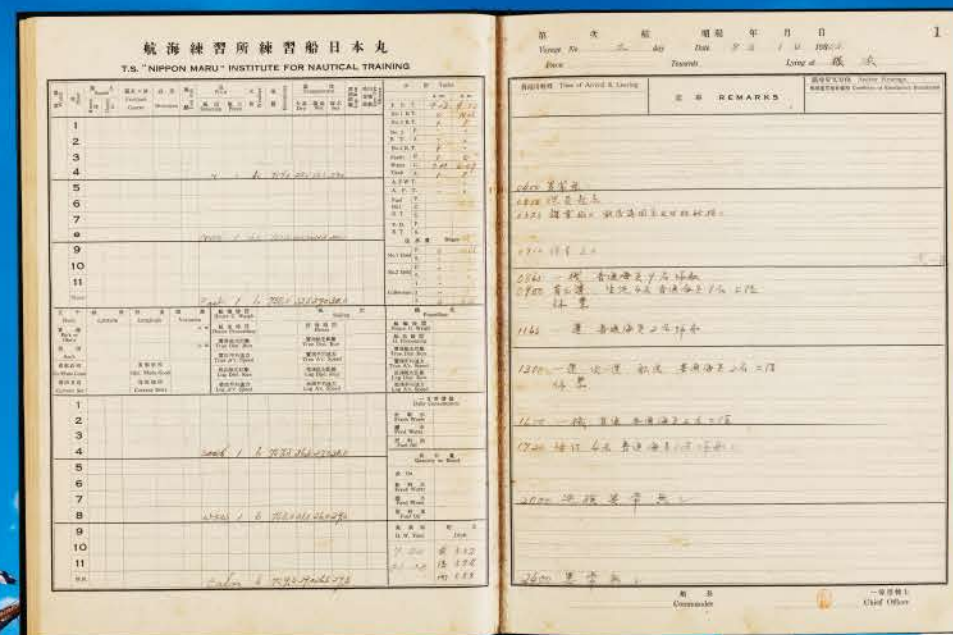


～占領期の日本船～
スカジャップ
SCAJAP番号
標示船写真

5月31日(土)～

～航海日誌が語る、戦時中の日本丸～

帆船日本丸
重要文化財附資料
日本語記載の
航海日誌
8月15日(金)(終戦の日)～



2種の資料から見つめる、日本の足跡

～戦後復興を支えたさまざまな船たち～

占領期の日本船

「SCAJAP 番号 標示船」写真

1945(昭和20)年の敗戦後、連合国総司令部に日本商船管理局(SCAJAP=Shipping Control Authority for JAPanese Merchant Marine)が設置され、鋼船で100総トン以上の日本船舶は登録番号であるSCAJAP(スカジャップ)番号を舷側に標示し、運航許可を得て航行することになりました。これはサンフランシスコ講和条約が発効された、1952(昭和27)年まで行われました。

2002(平成14)年にSCAJAP番号標示船のプリント写真が日本郵船歴史資料館(現 日本郵船歴史博物館)より横浜みなと博物館へ寄贈されました。その数およそ1900枚。貨物船、タンカー、客船、練習船、漁船、曳船などさまざまな船の姿がそこにありました。



N054 練習船 日本丸 舷側にある4つの英数字がSCAJAP番号。先頭1桁は英字、下3桁は数字が付された。英字は基本的に英字船名の先頭1文字をとった



X119 油槽船 セリあ丸 タンカーは船名に関係なく先頭に英字の「X」(エックス)が使用された



T255 貨物船 第二東西丸 旧海軍の運貨船。横浜で撮影されたもの。船首後方に日本郵船の貨客船氷川丸が見える

横浜みなと博物館では、このSCAJAP番号標示船のプリント写真のデータ化を進めてきました。写真の裏面には船のデータの他、造船所や海運会社のスタンプなどもあり、そうしたものも含めると画像データは3000点を超えます。戦後80年となる2025(令和7)年、横浜みなと博物館内ライブラリーにてSCAJAP番号標示船のデータ等を公開します。占領期の日本船等について考えるきっかけにいただければと思います。

協力:船舶部会「横浜」

資料公開

SCAJAP番号標示船写真公開

2025(令和7)年5月31日(土)より、SCAJAP番号標示船写真を印刷製本した資料集とデジタルデータを横浜みなと博物館ライブラリーで公開します。

パネル展示

SCAJAP番号標示船写真について

SCAJAP番号標示船写真について紹介するパネル展を実施します。

会期 2025(令和7)年5月31日(土)～8月11日(月・祝)

開館時間 10時～17時

会場 横浜みなと博物館 ロビー
(無料ゾーン
どなたも自由にご見学いただけます)

※横浜みなと博物館ライブラリーの入室は有料です(横浜みなと博物館常設展示室の入館券またはライブラリーのための利用料1人1日100円が必要です)

～戦時下の帆船日本丸の記録～

帆船日本丸

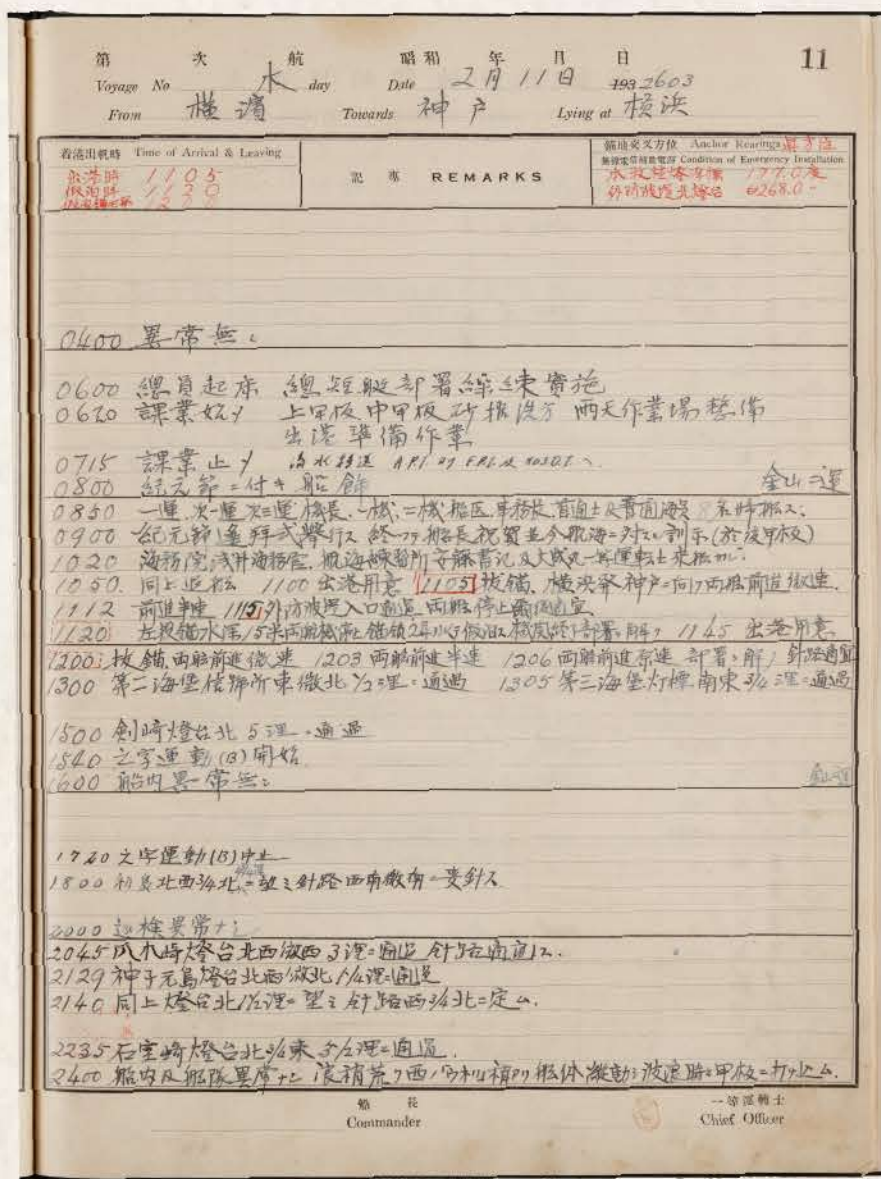
重要文化財附資料

日本語記載の航海日誌

帆船日本丸は太平洋戦争中、瀬戸内海で戦時緊急物資輸送を続けながら、国からの船員の大量即席養成にこたえて、船員養成の仕事を継続して実施しました。

帆船日本丸の航海日誌は通常英文筆記体で記されていますが、1942(昭和17)年8月1日から1945(昭和20)年9月末までは、日本語で記載されています。このなかには、空襲警報や警戒警報、灯火管制、石炭輸送の様子、対潜水艦訓練、被災した他船への救助活動などが記載され、当時の緊迫した様子を伝えています。一方で、本来の活動である航海訓練、そして船員への関心を抱かせるため、瀬戸内海周辺の市町村などでの子どもたち向けのPR活動の様子なども記録され、戦時中の帆船日本丸の多様な活動を知ることができます。

1943(昭和18)年2月11日
練習船の瀬戸内海集結のため、帆船日本丸は午前11時5分に横浜から神戸へ向けて出港した。航海中、敵潜水艦の攻撃をさけるため、之字運動(のじうんどう ジグザグ航海)を行っている



資料公開

帆船日本丸日本語記載航海日誌資料集と、デジタルデータの公開

2025(令和7)年8月15日(金 終戦の日)より、日本語で記された航海日誌のデータを印刷製本した資料集とデジタルデータを横浜みなと博物館ライブラリーで公開します。

※ご利用の際は別途利用料金が必要です。詳細はWebにてお知らせいたします。

パネル展示

帆船日本丸の日本語記載航海日誌

日本語で記された航海日誌の紹介とそこから読み取れる戦時中の帆船日本丸の活動をパネルでご紹介します。

会期 2025(令和7)年8月15日(金・終戦の日)～11月16日(日)

開館時間 10時～17時

会場 横浜みなと博物館 ロビー
(無料ゾーン
どなたも自由にご見学いただけます)

※横浜みなと博物館ライブラリーの入室は有料です(横浜みなと博物館常設展示室の入館券またはライブラリーのための利用料1人1日100円が必要です)